

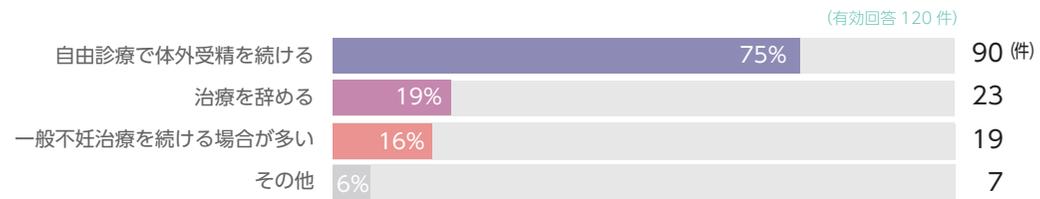
保険診療の対象から外れる患者さんについて

治療では、一般不妊治療を続けるケースが多いのか、自由診療で体外受精を続けるケースが多いのか、あるいは治療を辞めるケースが多いのか、それらをその他のケースも聞きながら確認しました。

結果、120 回答中、自由診療で体外受精を続けるケースが多いが 90 件 (75%)、治療を辞めるが 23 件 (19%)、一般不妊治療を続けるが 19 件 (16%)、その他が 7 件 (6%) でした。その他には、「まだ分かりません」「状況に応じて」「まだ治療中に外れたことがない」「一般不妊治療と体外受精をする」「まだ保険の上限に達した人が少数なのでこれからかと思います」の記載がありました。

保険診療から外れる患者さんが、自由診療での体外受精を続けているケースが多いこともわかりました。アンケート調査は全国対象ですが、地方などでは助成金が使え地域が増えてきていることも理由にあるようです。

保険診療の対象から外れる患者さんはどうしていますか？



その他 ▶ まだわかりません、状況に応じて、まだ治療中に外れたことがない、同じくらいの割合、一般不妊治療と体外受精をする、まだ保険の上限に達した人が少ないためこれからかと思います



グラフ 9-1 保険診療の対象から外れる患者さんについて

取り扱いのある診療について (先進医療項目他)

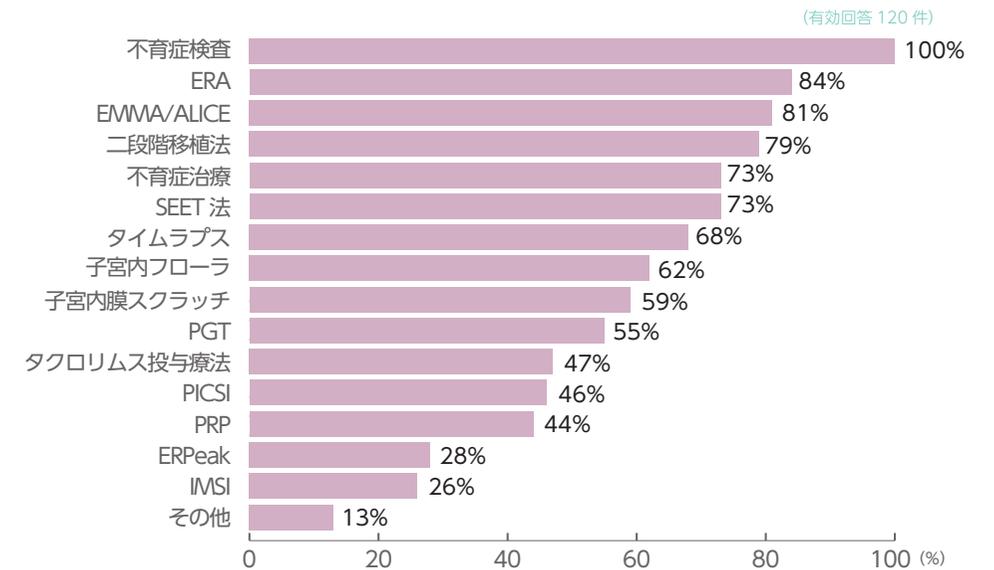
以下の先進医療項目含めた診療の中で実施のあるものを各 ART 施設に伺いました。

これらの診療は、患者さんが受けたいと希望しても全 ART 施設で実施しているものではありません。保険診療で不妊治療を受けながら受けることができるものやできる治療施設、そして自由診療で受けられる施設など違いが生じることも知っておきましょう。

診療項目は、1、PICSI 2、IMSI 3、タイムラプス 4、ERA 5、ERPeak 6、EMMA / ALICE 7、子宮内フローラ検査 8、子宮内膜スクラッチ 9、SEET 法 10、二段階移植法 11、タクロリムス投与療法 12、PGT 13、PRP 14、不育症検査 15、不育症治療、16、その他の項目。(それぞれの説明は 40 ページを参照)

結果は、回答 120ART 施設中、多い順に不育症検査の 100%、ERA 検査の 84%、EMMA / ALICE 検査の 81%、二段階移植法の 79%、不育症治療の 73%、SEET 法の 73%、タイムラプスの 68%、子宮内フローラの 62%、子宮内膜スクラッチの 59%、PGT の 55%、タクロリムス投与療法の 47%、PICSI の 46%、PRP の 44%、ERPeak の 28%、IMSI の 26%、その他の 13% でした。

取り扱いのある診療項目はどれですか？



その他 ▶ 子宮鏡検査及び手術、LLL 低周波レーザー、PFC-FD、G-CSF 療法、TESE、リンパ球子宮内注入、メトキシルシン療法、AGE 低下療法、PBMC、SI-ICSI、漢方

グラフ 10-1 取り扱いのある診療について